

全校生徒を対象とするソーシャル教育 —聴くスキルを通して—

目的：全校生徒に、心地よい人間関係を築くには何が必要かを考えさせ、ソーシャルスキルに関する意識を高める。同時に、2 学期実施予定のチャレンジレッスン（SST）への不安を低減し、動機づけを高める。

実施日：平成 19 年 6 月 28 日（木）

実施時間：総合的な学習の時間（50 分）

実施場所：本校体育館

実施者：総合司会 名和田教諭
 講演者 法政大学および大学院の学生（7 名）
 参与的観察者 スクールカウンセラー原田

講演内容：

導入	ソーシャルスキルについて説明し、ソーシャルスキルを学ぶための動機づけを高める。
展開	仲間関係における葛藤場面を学生がモデルとして提示し、全校生徒と共に考える。そして、聴くスキルのポイントを理解し、スキルを全校生徒でリハーサルする。
まとめ	本講演内容の振り返りをし、日常生活へ活かすように促す。

その後、教室に戻ってから各担任教師より、講演内容におけるポイントがまとめられた「チャレンジシート」が配布された。

チャレンジシート(ソーシャルスキル)

平成 19 年 () 月 () 日
() 年 () 組 氏名

1. 今日の講演会のポイントを振り返ってみましょう。

<聴くスキルのポイント>

相手に体を向ける
相手を見る
相づちをうつ
最後まで話を聴く

人とのやりとりをスムーズに運ぶための知識と
その知識に基づいた具体的なやり方・コツを
「ソーシャルスキル」と言います。ポイントを
押さえて、どんどん友だちの話を聴いてみよう!!



さらに、会話を豊かにするために、聴いた内容・話について
質問する

ソーシャルスキルで大切なこと～練習のための 4 つのポイント～

○ 積極的に練習しましょう

例えば、スポーツの場合も、初めはぎこちないですが、練習すれば徐々に体が動くようになります。人と付き合うためのソーシャルスキルも同じです。スキルのコツを積極的にどんどん練習しましょう。

○ 他の人のやり方を見て、マネしてみましょう

身近にいるソーシャルスキルの上手な友だちや TV で見かけたタレントのやり方を見て、マネしてみましょう。他の人のやり方を見ることは、自分のやり方を振り返ったり、比較したりするためにとても役に立ちます。意識して周りを見てみましょう……大きな発見があるはずです。

○ 友だちが上手にできていたらホメましょう

どんなことでも人からホメてもらおうと、嬉しくて、どんどん上手になっていきます。上手にできていたら、お互いにホメ合いましょう。他の人からのアドバイスはとても役に立ち、大切なことを気づかせてくれます。「こうすればもっと良くなるよね」などのアドバイスをしてあげるのもイイと思います(ただし、冷やかしたり、バカにすることはやめましょう)。

○ 自分で工夫してみましょう

料理の仕方にも色々あるように、友だちとの付き合い方にも色々なやり方があります。正解はありません。講演会で学んだやり方以外に、自分なりの工夫があったらどんどん試してみましょう。あなたらしい上手なやり方を見つけましょう。

2. 日常生活で聴き上手な友だちがしていること、TV の対談番組やドラマなど、聴き上手な登場人物の行動で気がついたことがあれば、チェックしてみましょう。

誰が		(例)タモリ			
どんな時に		対談で			
聴くスキルを使っていましたか? その人の聴き方はどうでしたか? (よくできたら、だいたいできていたら○をつけましょう)	体を向ける	○			
	話す人を見る				
	相づちをうつ				
	最後まで聴く				
	質問する				
感想 (こんな点が良かった、自分ならこうする、こうすればもっと良かった、など)					

ガイダンス

ねらい ソーシャルスキルについて理解し、SSTへの動機づけを高める。

場面	教師の指示（●）と児童の行動と反応（○）	留意点
導入	●これから授業を受けるにあたり皆さんに心の状態について知ること、これからの授業に生かし、また皆さんの生活が豊かになるような支援をしたいと考えています。をしてもらいます。 ○児童用社会的スキル尺度、自尊感情尺度、ターゲットスキル7件法、生徒に実施する。 ●アシスタントの学生を紹介する	→ 検査についての諸注意を伝える 1
展開	●ところで、皆さんはSSTって何のことが知っていますか？ わからない ●SSTについて説明する ・ソーシャルスキルとは？ ・ソーシャルスキルトレーニングについて ・SSTにおける約束事の確認 ●SSTについて理解したところで、皆さんがこれから学びたいスキルについて考えて、ワークシートに書いて見ましょう。 わからない、誤り方、断り方、など ●ここで、簡単なエクササイズ（体ほぐし）をやってみましょう	→ 資料を使って説明する 板書を行う → 動機づけを高める → 何人かの生徒に発表してもらう → 時間があればやる 2
まとめ	●本時の学習について振り返る 友だちとのやりとりの技術はたくさんあり、難しいですね。次の時間は、実際に皆さんに体験してもらいたいと思います。 ●今日の授業を振りかえって感想を書きましょう。	・大切な点を押さえ、実践への意欲を高める ・本時の感想を書かせ、理解と意欲について評価する

1 検査における留意点

この結果は、成績に影響したり、他の人に伝わることはありません。個人のプライバシーは守られています。答えにくいところがあるかもしれませんが、できれば協力してください。また、この協力してくれた内容は、SC原田が高校生のソーシャルスキルについて研究をしていますので、協力させてもらうことをお願いします。

2 エキササイズ

先生が考えてきたものを実践

時間があれば行う

自己紹介 ねらい	自分を把握して考えや思いを相手に伝えること、その際、相手も知ることによって良好な人間関係をつくることを学ぶ。	
場面	教師の指示（●）と児童の行動と反応（○）	留意点
インストラクション	● 先生が自己紹介で困った体験などを話す。 ● 様々な場面で自己紹介をすること、結構ありますよね。例えば、・・・。 ● 自己紹介をするとどんないいことがありますか？ 初対面の人に誤解されないよう自分をわかってもらう。 他人には「まだ知られていない自分」を教え、「自分が知らない自分のこと」を教えてもらえる自分を見つめるチャンスになる ● 自分のことをもっと知ってもらふこと、伝えることは大事ですね。 ● 自分のことをもっとわかてもらうために、上手な自己紹介の方法を考えてみましょう	→ 例を板書する → 例を具体的に提示 → 言いたくないことまですべて言う必要はないことを確認する → どうしたら上手に自己紹介できるか問題意識を持たせる。 → 様子を見て、教師が介入。
モデリング	● ここで、まず簡単なエキササイズをやってみましょう（「どこに行きたい？」 ○○に行きたい ● では実際に、アシスタントの学生二人にやってもらいましょう。 ● 今、やってもらって会話を聞くと、どんな人がなんとなくわかってきますね。 ● 今、実演してもらったことをまとめると自己紹介をするときに、次の5点が大事だということがわかりますね。 声の大きさ、速さ＋ 視線＋ 表情＋ 姿勢等の態度＋ ことば（表明の仕方）。	→ 教師が提示して大事な点を確認する
リハーサル	● では、皆さんも同じように、そのグループで順番に紹介をしてみましょう。 ● 次にその紹介を入れて名前を「紹介ゲーム」をしましょう。 一度やってみますね（先生とアシスタントでやってみせる）	→ 様子を見て、教師が介入。
フィードバック	● 皆、随分上手に自己紹介ができるようになりましたね。 ● それでは今日の感想などを振り返りシートに書いてみましょう ● 今日の感想を何人かの人に聞いてみます。 ドキドキした。自己紹介って難しい。伝え方は大事とわかった。 ● 緊張や不安等でいつも上手にできるとはかぎらないですね。自分のいいところを知って、状況や相手に応じて紹介したいことを選べればいいですね。そして、聞こえる声で、視線を合わせ、表情豊かにお互いが気持ちのいい自己紹介ができるといいですね。	→ 学んだことが思い出せるよう、この時間だけで終わらせない。
ホームワーク	● それでは今日のことを生かして、実際に生活の中で、一度自己紹介をしてみましょう（ワークシートを配る）。もし、上手く自己紹介ができたなら、そのことを記入してください。このカードは、一週間後に回収します。	

エキササイズ：「どこに行きたい？」

・新聞や折込チラシ、パンフレット等の中から「行きたいところ」を自由に選ばせる。そして、行きたいところを皆に紹介する。（人数やメンバーによってグループを構成する）

例）私は3年○組の○○です。私の行きたいところは○○です。理由は○○だからです。

・旅行を他のものに変えてもよい。例）お弁当、1000円あったら何を買う？

エキササイズ：「メモリーサークル」

・1番目の人が「○○へ行きたい（氏名）です」と言ったら、2番目の人が1番目の人を紹介してから自分を紹介する。3番目の人は、1番目・2番目の人を紹介してから自分を紹介する、というように順番に全員が紹介をしていく。1周したら、言えた人から抜けていく。

・グループ、あるいは全員で輪になって座る

・グループの新密度によってやり方を工夫する。 例）ニックネーム

・名前がうまく出てこないときには、助け合う。

|

|

挨拶

ねらい

挨拶の仕方を身に付ける。また、あいさつをしたとき、されたときの気持ちに気づき、進んで自らあいさつができることを学ぶ。

場面	教師の指示（●）と児童の行動と反応（○）	留意点
インストラクション	●まずは、簡単なエキササイズをしましょう。 Ex. ボール投げ挨拶 ●先生がうまくできなかった挨拶の体験を話す。 ●皆はうまく挨拶ができなくて困ったことはありますか？ ちょっと考えてみましょう。（何人かに発表させる）	→ 円陣に座る，前回の復習を兼ねる → どうしたら上手に挨拶ができるか問題意識を持たせる
モデリング	●ここでアシスタントの二人に挨拶の例をしてもらいましょう。 ●同じ挨拶でも言い方によって相手に伝わり方がちがってきます。（異なる2通りの挨拶を実演）今の2つの挨拶はどうでしたか？ の挨拶は元気で、ハキハキしている の挨拶は元気がなく、気分が沈む。 ●皆の意見をまとめると 相手の目を見て言う＋ 元気な声ではっきりと＋ 気持ちよく心をこめて＋ 表情豊かに＋ 会釈などが大事ですね。 ●挨拶は人の印象を作り、その後の関係を発展させるためのカギとなります。相手に印象を与える出会いのポイントを確認しておきましょう。	→ モデルは大きさに示す → ワークシートに記入させる → アシスタントはサポートする → できなかった観点は，教師が提示し助言する
リハーサル	●それでは、今挙がった大事な点に気をつけながら、名前を呼んで挨拶の練習をしましょう。ペアを組んで順番に、終わったら他の人ともやりましょう。まずは一度やりますね。 ●少し気をつけただけで「気持ちのよい挨拶」ができていますね。中には、その後も話を続けたいくなる感じの人もしましたね。	→ 内と外に2つの円をつくり、互いに向き合わせて挨拶をする。そして、順番に全員とあいさつする → 上手にできた生徒に発表してもらう
フィードバック	●それでは、今日の感想を書いてみましょう。 ●今日の感想を何人かの人に聞いてみます。 ドキドキした。自己紹介って難しい。伝え方は大事とわかった。 ●体調や気分によってはいつも上手にできるとはかぎらないですね。相手と自分の気持ちや状況を考えて、挨拶の仕方を選べるといいですね。今日のことを生かして自分も相手も心地の良い挨拶ができるといいですね。	→ 学んだことが思い出せるよう、この時間だけで終わらせない。
ホームワーク	●一日を気持ちよく過ごすことばを一つ使えるようになりました。それでは、今日のことを生かして、実際に生活の中で、一度挨拶をしてみましょう。（ワークシートを配る）。もし、上手く挨拶ができたら、そのことを記入してください。このカードは、一週間後に回収します。	→ 練習することが大事であることを伝える

聴く

ねらい：人の話に注意深く耳を傾ける大切さに気づき、受容的に話を聴いてもらう心地よさを体験して、相手とのやり取りにおける「聴く」ことの大切さを理解する。そして実際生活に活かすよう動機づけを高める。

場面	教師の指示（●）と生徒の行動と反応（○）	留意点
インストラクション	●やまびこの話。説明を終えて皆が聴く様子から様々なことを感じます。大きくうなづいてくれる人からは「わかってくれた」というメッセージをもらったり、「もう少し話そう」と元気をもらいます。一方で、下を向いたり、相づちなどがないと、「わからなかったかな」「つまらないのかな」と不安や心配になります。皆も似た経験がありませんか？ ●今日は相手が気持ちよく話せる上手な聴き方を考えてみましょう	→生徒は指定席に座る →教師の体験を具体的に話す →教師
モデリング	●これから2つの聴き方をやるので、どのような違いがあるか考えてみましょう。（教師とTAがやって見せる：今日、朝起きてから学校に来るまでの様子について） 話しかけた人に顔だけ向けた聴き方、話しかけた人の目を見ていない聴き方、話しかけられても自分のやっていることをやめない聴き方 悲しい気持ち、相手に腹が立つ 体向ける・話す人を見る、相づちをうつ聴き ●相手が嬉しくなる聴き方で、大事なことをまとめる を向ける、話す人を見る、相手の目を見る、相づちをうつ、やっていることをやめる	→前回の復習をし、本時の目標確認 →アシスタントは大げさに違いを分かりやすく表現して見せる →大事なこと5点を意識して、分かるように表現する。同時に、ノンバーバル(声の大きさと速度、表情、しぐさ)にも配慮する →板書（掲示物）で確認する
リハーサル	●では、これから実際に話を聴く体験をしてもらいます。最初に、TAにやってもらいましょう。まずは、ペアになって、一人は大事なことを意識して友達に話をし、もう一人はその話を一切聴かない態度をしてください。一人1分話したら交代します。（時間を区切って交代でさせる） テーマ：朝起きてから学校に来るまでの様子 ●次に、違う人とペアになって、一人は大事なことを意識して友達に話をし、もう一人はその話を「一切受け入れない」聴き方をしましょう。1分話し終わったら、次は話をじっくりと聴いてあげてください。（1セット終わったら、時間を区切って交代でさせる） ●「話を聴いてもらう・聴いてもらえない」ことを体験してどんなことを感じましたか？ 質問をしてもらう・最後まで聴いてもらう・繰り返ししてもらうと嬉しい、無視されて悲しい、など ●「話を聴く」大事な点がたくさん確認できましたね。ではここで、改めて、今日の感想をグループで話し合しましょう。（TAもグループに入る、必ず一人一言感想を述べられるよう円滑に進行をサポートする）	→特にスキルを学習させたい生徒にTAがサポートにつく →聴くときに、質問したくなったらしても良いことを伝える →発言がないときは、発表できる力のある生徒を指名する →生徒の発言に対し、褒める・励ますなどの言葉かけをする
フィードバック	●話の聴き方の大事な点を守ること、話す人も話しやすくなったことがわかりましたね。これを試して「聴き上手」になってみましょう。 （教師が伝えたいメッセージを教師の言葉で伝える）	→学んだことが思い出せるよう、この時間だけで終わらせない。 →受け入れるばかりでない。あなたは○○と考えているのですね 私は○○だと思いますと意見し拒否することもある、ことを説明する。
ホームワーク	●それでは今日のことを生かして、実際に生活の中で意識して人の話を聴いてみましょう（ワークシートを配る）。もし、上手く聴くことができたなら、そのことを記入してください。このカードは、一週間後に回収します。	→生活の中でスキルを使っていこうとする意欲を高める

質問する

ねらい : 適切な質問の仕方を身につけ、相手にいい気持ちで協力してもらえるようになることを目指す

場面	教師の指示(●)と児童の行動と反応(○)	留意点
インストラクション	●宿題はどうでしたか？(できていることを褒める) ●まずは、エキササイズをやってみましょう。 EX.ごちゃまぜビンゴ	→ホームワークの動機づけを高める
モデリング	●質問する時には大切なことがあり、その順番を守ることが大事です。相手の人に気持ちよく質問に答えてもらうためには、次の「質問の順番」に気を配りましょう。 1、あいさつする 2、質問してよいか相手の都合を確認する 3、質問する 4、お礼を言う。 ●では、学生に協力してもらって実際に質問してみます。 「ちょっとすみません。今、お時間はよろしいですか？○○さんの家に行くにはどうしたらいいですか？(行き方を答える)。わかりました。ありがとうございます。」 ●次に学生の二人にやってもらいましょう。	→問題意識を持たせる →教師は板書する
リハーサル	●では、もう一度、皆さんに「道をきいてもらうという質問」をやってもらいたいと思います。 ●次にごちゃまぜビンゴを「質問の順番」を守って質問をしてみましょう	→生徒は指名されたペアで順番にみんなの前でやる →様子を見て介入する
フィードバック	●最後に、今日の内容を振り返って、カードに記入しましょう ●この順番を覚えておくと、相手も気持ちよく、自分も気持ちよく質問することができますね。友達や先生、見知らぬ人にも、これを使って必要な質問をどんどんするといいですね。	→学んだことが思い出せるよう、この時間だけで終わらせない。
ホームワーク	●それでは今日のことを生かして、実際に生活の中で、質問をしてみましょう(ワークシートを配る)。もし、上手く質問ができたなら、そのことを記入してください。このカードは、一週間後に回収します。	→生活の中でスキルをいつか行こうとする意欲を高める

指定席で座らせる

配慮する生徒に学生が丁寧に介入する

上手な断り方

ねらい：要求を受け入れることと断ることのどちらが自分の本心に近いか考えたうえで、断る際に理由をつけること、そして、断られる相手の気持ちを予想して断ることができるようにする。

場面	教師の指示（●）と児童の行動と反応（○）	留意点
インストラクション	●前回の宿題の確認（できたこと・やってきたことを褒める） ●教師の「頼まれごとを断れなかった体験談」を話す ●皆さんはだれかになにかを頼まれることがたくさんあるはずですが、断りづらいなあと思ったことはありますか？ 宿題を見せて、お金を貸して、悪いことの誘い	留意点 →約束事の確認（積極的に練習しよう、他の人のやり方を見てみよう、友だちが上手にできていたらほめよう、自分で工夫してみよう） →人に何か頼まれたとき、最初にすることは「引き受けるのか」、「断るのか」を決める自問であることを確認する
モデリング	●そうですね、頼みごとをされた時は、引き受けるのかどうかよく考えて、断ることが必要になってきますね。では、これから2つの断り方を学生にやってもらいます。2つの断り方のどこがいけないでしょうか。 は二度と頼みたくない、友達でなくなるかも はいいのか悪いのかはっきりしない、誤解を招く ●本当はこの場合、どんな断り方をしたらよかったですか？ ごめんね、残念だけど今は時間がないから遊べない。また今度、誘ってね。 ●みんなの意見をまとめてみると、次の4点が大切ですね。 謝罪 + 断る理由 + 断りの表明 + 代わりの意見。	→生徒から意見がでない場合は、個人あるいはグループで話をさせる →4つの観点を板書する
リハーサル	●ワークシートに「一緒に遊ぼうよ」と言われて断るときの言葉を自分で書いてみよう ●では、作った台本を皆の前でやってみましょう。 ●○○さんの断り方、（傷つけない、笑顔、声の大きさ、等）がよかったですね。このように断れば、相手を傷つけないで断ることができますね。では、今度は相手に向かって実際に断る練習をグループでやってみましょう。 ●3～4人のグループになり、断る場面を選んで、台本を作ってみましょう。台本が作り終わったら、1つの場面で断る人が一人、断られる人が一人、見ている人が2人とします。見ている人はチェックリストを使って上手に断っているところを見てあげてください(場面例： 上記と同じ場面、 テレビを見ているのにお母さんから皿洗いを頼まれた、 仲がよい友だちから「あの人むかつくから無視しよう」と言われた、 テスト直前で自分も勉強したいときにノートを貸してといわれた、 友だちと帰る途中に万引きしようと言われた、 自分はバレーボールが得	→断ることが苦手な子には、台詞だけでも何度が練習し、自信をつけさせてから、相手に向かって練習する →学生が各々のグループに入り、一緒に活動しつつサポートする。 →教師はグループを回って支援する →何組か全体の前で発表する
フィードバック	●今日の活動を振り返ってみましょう（相手に面と向かって断ってみて、断られたときの感想を生徒に発表させる） ●人からお願いされても全部やってあげられるとはかぎりません。相手と自分の気持ちや事情を考えて、断るのか引き受けるのか決めます。断るときには今日の学習を生かして上手に断れるといいですね。	→ポイントを絞って実践につながるような働きかけをする
ホームワーク	●それでは今日のことを生かして、実際に生活の中で、断ることをしていきましょう（ワークシートを配る）。もし、上手に断ることができたら、そのことを記入してください。このカードは、一週間後に回収します。	→教師の言葉でメッセージを伝える →練習することが大事（=ホームワーク）であることを確認し、励ます

あたたかいことばかけ（感謝する）

ねらい：自分の発する言葉が、相手にどのような影響を与えるかに気づき、あたたかい言葉かけとは何かを知り、状況に応じたことばかけができるようにする

場面	教師の指示（●）と児童の行動と反応（○）	留意点
インストラクション	●簡単なエキササイズをしましょう（まめうつしゲーム） ●やっている様子から「あたたかいことばかけ」を確認する ●教師のあたたかいことばかけの体験談を話すしながら、あたたかいことばかけと冷たいことばかけがあることを確認する。 ●皆さんは、あたたかい/冷たい言葉かけをしてもらったどんな気持ちになりますか。 あたたかい言葉・・・うれしい、がんばろうと思う 冷たい言葉・・・悲しい、怒りがわいてくる ●あたたかい/冷たい言葉の確認をする あたたかい言葉・・・お礼、心配、励まし、ほめる 冷たい言葉・・・けなす、悪口、欠点の指摘 ●ここで、皆の意見からあたたかい言葉かけの働きをまとめる ・相手の気持ちをよくする ・肯定的な気持ち（注目している、配慮している、好意を感じている、受け入れている）を伝えることになる ・自分の思っている気持ちを伝えるので、自分の気持ちも良くなる ・人間関係がよくなる	→声かけの奨励をする →話しながら、あたたかいことばかけと冷たいことばかけがあることを確認する。 →どんなふうに言われて、どう感じたかを生徒に発表させる →言葉かけがどのような影響を与えるかを確認する →板書、ワークシートを配布する
モデリング	●では、学生に協力してもらってやりとり（勉強がわからないやりとり）をしてみます。 ＜ねえ、ここちょっとわからないんだけど、よかったら教えて＞ 冷たいことばかけ：こんなのもわかんないの、ばかだなー。 あたたかいことばかけ：うん、いいよ。どこがわからないのかなあ？一緒に考えよう。 ＜うん、ありがとう＞ ●2つのやり方を見て、どんな感想を持ちましたか。 ：ひどい、冷たい 嬉しい、感謝の気持ちがわく	
リハーサル	●それでは、4人組のペアになって、聞く人が一人、答える人が一人、見ている人が2人とし、全員が全ての役をやりましょう。そして、やったそれぞれの役をやった感想をメンバーで話し合しましょう。話し合いが終わったら、班で話し合ったことを代表に発表してもらいます。 あたたかいことばは嬉しい、お礼を気持ちよく言える ●最後に、今日でSSTのセッションが最後になるので、参加した皆でお互いを感謝する振り返りをします。まず、学生からSSTを振り返って皆に感謝の気持ちを伝えあいましょう（言い終えた人が次の人にボールを投げる）。	→ワークシートを見ながら、台詞を言ってもかまわない →各グループにサポートが入り、つまづいている生徒に声をかけ励ます →円陣になり、教師・学生が輪に入る
フィードバック	●今日の活動を振り返って、ワークシートに感想を書きましょう。	→ポイントを絞って実践につながるような働きかけをする
ホームワーク	●それでは今日のことを生かして、実際に生活の中でも活かしてみましょう（ワークシートを配る）。もし、上手に感謝することができたら、そのことを記入してください。このカードは、一週間後に回収します。	

まとめ

ねらい SSTについての理解と今後のソーシャルスキルを日常生活で使用する
ことを動機づける

場面	教師の指示（●）と児童の行動と反応（○）	留意点
導入	● 今日でSSTの授業が最後です。今日は、今まで学習したことを復習しつつ振り返り、全員でシェアリングをして終わりたいと思います。 ● 児童用社会的スキル尺度、自尊感情尺度、ターゲットスキル7件法、生徒に実施する。 ● このメンバーで最後のエキササイズをやりましょう ex. パースデイライン	→ 検査についての諸注意を伝える 1 → あたたかい雰囲気をつくる
展開	● SSTについて復習する ・ ソーシャルスキルとは？ 学んだスキルの活かし方 等 ● SSTをやった感想をグループで話し合いましょう（グループ指定）	→ 配布した資料を使って説明する → 板書を行う → それぞれのグループに教師・学生が入って進行役をする → 何人かの生徒に発表してもらう
まとめ	● 本授業全体について振り返る 友だちとのやりとりの技術はたくさんあり、難しいですね。この時間で得たことを、それぞれの場面で思い出して上手に使ってもらえたらと思います。 ● 今日の授業を振りかえって感想を書きましょう。 ● 修了証授与式を行う	・ 大切な点を押さえ、実践への意欲を高める ・ 本授業の感想を書かせ、参加したことに対して肯定的な感情で終わるようにする ・ 最後まで参加したことを評価する

修了証を渡すときに、法政大よりお礼の文具も渡す
授業終了時に、学生・原田からもお礼と感想を伝える

フォローアップ面接のお願いと1月に再調査のお願いを生徒にする

SST 行動評価

平成19年 月 日

第 回；

記録者 ()
生徒氏名 ()

カテゴリーと定義の観察行動コーディングに従って、評価してください。
そして、大人の視点から社会的に望ましいかという視点よりも、高校生の対人関係として
同年代が受け入れられるかという観点から判断してください。

	できなかった	あまり できなかった	どちらで もない	まあまあ できた	よく できた
<非言語的側面>					
アイコンタクト	1	2	3	4	5
声 : 大きさ	1	2	3	4	5
話し方のスピード	1	2	3	4	5
表情	1	2	3	4	5
姿勢	1	2	3	4	5
身振り手振り	1	2	3	4	5
<言語的側面>					
肯定的	1	2	3	4	5
否定的	1	2	3	4	5

その他、気づいたこと

カテゴリーと定義の観察行動コーディング

非言語的側面(質的)		
	アイコンタクト	会話中2秒以上相手の顔を見ること、とぎれなくジロジロ見たりにらまない。
	声の大きさ	怒鳴る、ボソボソ小さな声ではなく、相手に伝わる程度の声の大きさと話す
	話し方のスピード	早口やゆっくり過ぎるではなく、穏やかに柔らかく話している。
	表情	笑顔で話す、しかめっ面や不機嫌な顔を相手にしない。
	姿勢	相手と程よい距離を保ちながら体を相手の方に向けた開かれた態度をとる。前かがみ、手足を伸ばす、無様に大の字になることがない。
言語的側面(量的)		
肯定的	感謝の言葉	ありがとう、助かった、など、ありがたく感じてお礼や謝意を表す言葉
	気配りを示す言葉	大丈夫、どうしたの、など相手が失敗しないように、あれこれと気をつける、心配りをする配慮ある言葉
	励ましの言葉	がんばって、平気だよ、大丈夫、など相手を応援する、奮い立たせる言葉
	共感を示す言葉	なるほど、そうなんだ、など相手の体験する感情や心的状態、あるいは主張などを、自分も全く同じように感じたり理解したりすることを表す言葉
	肯定的な気持を示す言葉	うんうん、など同意したり求めること、あるいは価値があると判断すること
否定的	乱暴な言葉	粗雑で、荒々しい言葉
	侮辱する言葉	相手をあなどり、はずかしめる言葉
	イヤミ、からかいの言葉	相手に不快感を抱かせる、あるいはいやがらせる、冗談を言ったり困らせたりして人をもてあそぶ、あるいはじらし苦しめる言葉
	否定的な気持ちを示す言葉	賛成できない、あるいは否定する内容の言葉